

箱根旧街道一里塚



錦田一里塚（南塚）

2020 三島市教育委員会



箱根八里
HAKONE HACHIRI



日本遺産

JAPAN HERITAGE

箱根旧街道一里塚は、日本遺産「箱根八里」の構成文化財です。

一里塚とは何か

一里塚とは、街道沿いに距離の目安として築いた塚のことで、その原型は戦国時代にありましたが、徳川家康が慶長九年（1604）に江戸日本橋を起点に築造を命じたことが有名です。一里（約3.9km）ごとに作ったので一里塚と呼んでいますが、実際の距離には多少のズレがありました。

塚の大きさは五間（約9m）四方と定められていましたが、高さや形には決まりが無く、方形や円形のものがいました。塚の上には目印となる榎・松・楓・樺等の木を植えました。目印の木に榎が最も多い理由は、「根が深く広がるので塚が崩れにくくなるから」と言われています。

こうした一里塚は江戸時代の旅人にとって距離を知る絶好の目印でした。ところが交通機関の発達と共にじゃま物扱いされるようになり、道路の拡幅によって片側あるいは両側の塚が崩されて消滅しました。しかし最近では歴史的価値が認められ、各地で一里塚の復元整備を行っています。

一里塚の構造

一里塚の発掘調査はこれまでに数例しかありませんが、神奈川県箱根町では東海道畑宿一里塚の発掘調査を平成9年に実施し、その結果を元に保存整備事業を行っています。

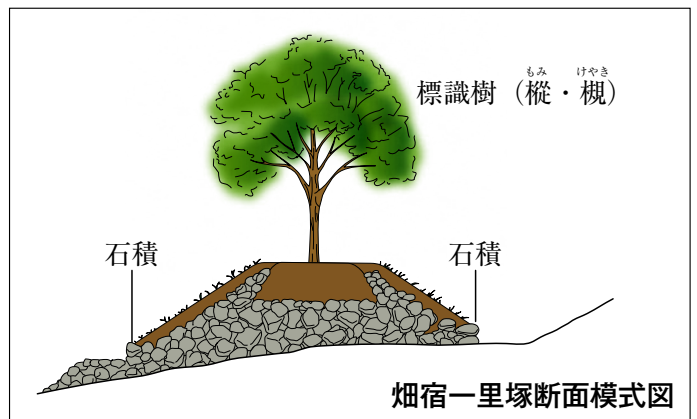
畑宿一里塚は直径約五間（9m）の円形に石を積み、内部に礫を詰めた上に土を盛った構造でした。石積みは最大で幅90cm、高さ60cm、控の長さ55cmの石材を2～3段積んでおり、街道側の最も高い所で1.5m、山側の低い所は50cmでした。これは高さを調整すると同時に、人の目に付きやすい街道側を意識的に立派に作った結果と考えられます。石積みの中に詰める礫は、下に大型のものを入れ、上に行くに従って小型になる様にして、排水を良くする工夫をしています。

また、表土層の盛り土は1m程度で、突き固めた様子はありませんでした。そのままでは土が崩れてしまうので、浮世絵等に描かれているように表面には芝状の植物を植えていたようです。そして塚の頂上は直径約2m程度の平場になっていて、この部分の盛り土は特に深く礫がほとんど入っていませんでした。これは塚の上に植えた木の生長を考えてのことと推測されます。木の種類は北塚が榎、南塚が樺であったことが江戸時代末期の資料『東海道宿村大概帳』に記されています。

この他に、東広島市の山陽道日向一里塚の発掘例があります。日向一里塚の北塚は直径約6m、高さ1.7mの円形で、周囲の石積みは1～3段でしたが、基本構造はほとんど一緒です。



発掘調査の様子



整備後の畑宿一里塚

にしきだいちりづか
錦田一里塚

位置 北塚 三島市谷田字初音ヶ原1726-1地先
南塚 三島市川原ヶ谷字船窪665-1
交通 J R三島駅から東海バス元箱根港行き11分、
バス停「初音入口」下車徒歩5分。

バス停「初音入口」から松並木沿いに箱根方面に約300m上ると、錦田一里塚は国道1号を挟んで南北に二基一対あります。

南塚は約10.5m×10.2mの楕円形で、高さは



錦田一里塚 北塚

約2.5mです。塚の上には榎が生えています。北塚は約11.1m×9.7mの楕円形で、高さは約2.5mです。塚の上には榎が生えています。江戸時代末期天保十四年(1843)の記録『東海道宿村大概帳』には、南側は榎、北側は松と書かれています。

一里塚が元の形のままだけ残っているのは、静岡県内では錦田と富士川町岩淵の二箇所だけで大変貴重です。錦田一里塚は大正11年3月8日に国の史跡に指定されました。



『東海道分間延絵図 (1806年完成)』より「谷田村部分」 東京国立博物館蔵

画面中央に錦田一里塚が描かれており、その両側に松並木が続いています。塚の上に複数の木が描かれていますが松以外の木の種類はよく分かりません。現在は街道部分が国道1号になっています。

さきはらいちりづか
笹原一里塚

位置 南塚 三島市笹原新田字水呑 300-1 地先
北塚 消滅

交通 JR三島駅から東海バス元箱根港行き24分、
バス停「笹原」下車徒歩2分。

バス停「笹原」から箱根旧街道石畳を箱根方面に約100m上ると、南側の一段高くなった林の中に笹原一里塚の南塚がありますが、北塚は残念ながら残っていません。



南塚は約14.2m × 13.8mの楕円形で、高さは約2.5mを測り、塚の上には椎等しいの木が生えています。しかし『東海道宿村大概帳』には、塚の上の木は松と書かれているので、これらの木は明治時代以降に植えたものと考えられます。

また一里塚北側の箱根旧街道石畳は、三島市が整備したもので、江戸時代の景観を留めています。箱根峠から笹原までは石畳が良好に残っており、ハイキングコースとしても最適です。



『東海道分間延絵図（1806年完成）』より「笹原新田部分」 東京国立博物館蔵

一里塚の右（箱根）側に松並木、左（三島）側に笹原新田の集落が描かれています。一里塚の上の木は松です。現在は絵図の松並木と集落の間に国道1号が直角に交わるように通っています。

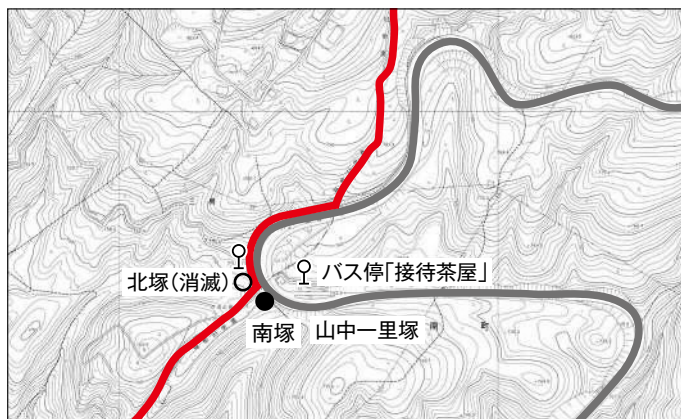
やまなか いちりづか
山中一里塚

位置 南塚 函南町桑原
北塚 消滅

交通 J R三島駅から東海バス元箱根港行き35分、
バス停「接待茶屋」下車徒歩1分。

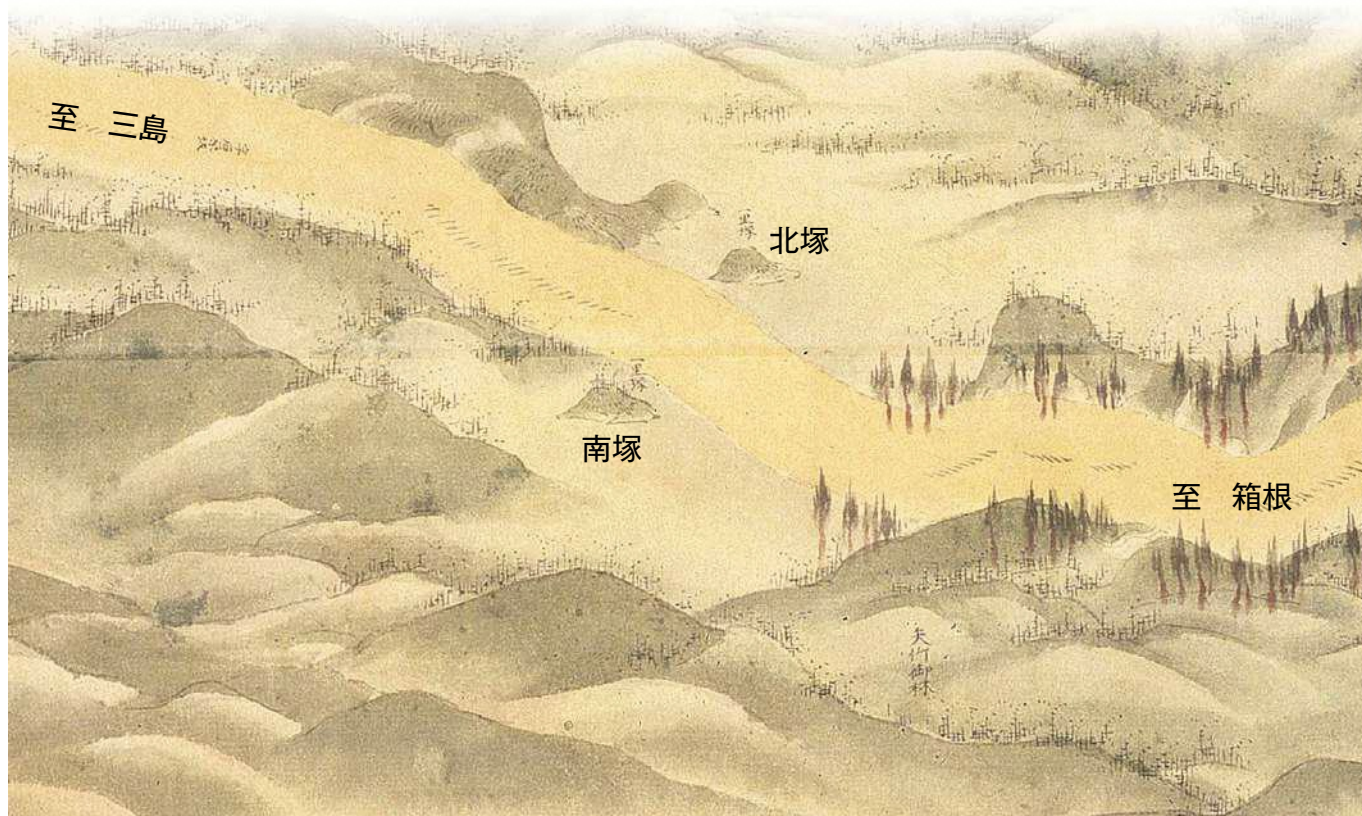
バス停「接待茶屋」から旧街道を三島方面に下っ
てすぐ左側に山中一里塚の南塚がありますが、北塚
は残念ながら残っていません。

南塚は約12.7m×10.9mの楕円形で、高さは



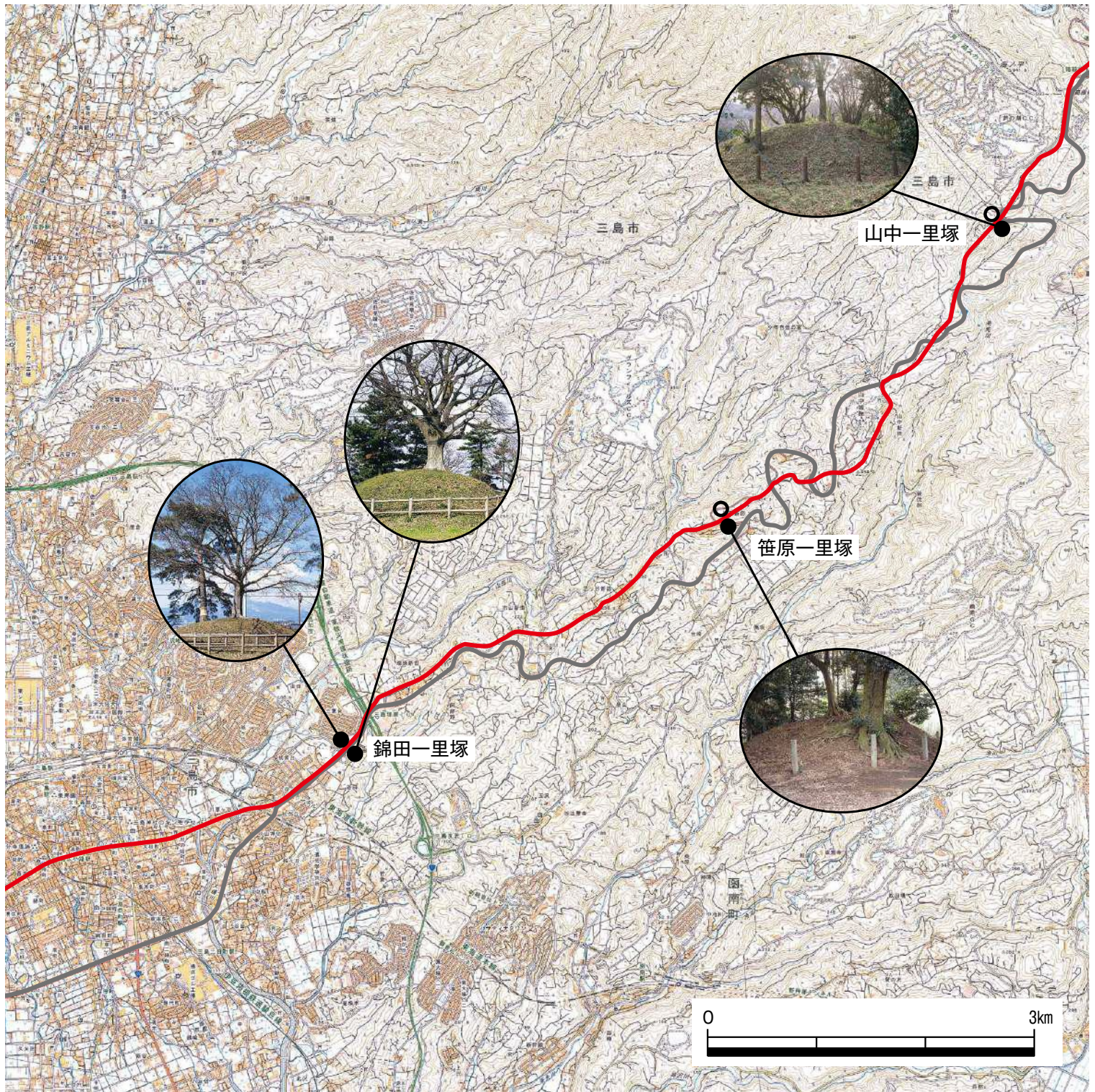
約2.0mです。塚の上にはアセビやツツジ等の木が
生えていますが、これらの木々は昭和の前半に植え
たものです。『東海道宿村大概帳』には塚の上に木
は無いと書かれています。

また国道1号を挟んで一里塚の東側には、江戸時
代末期に江戸の商人加勢屋與兵衛が興した接待茶屋
がありました。途中で経営者が変わりましたが、昭
和45年まで峠を越える旅人に無料で湯茶の接待をし
た事で有名です。



『東海道分間延絵図（1806年完成）』より「山中部分」 東京博物館蔵

一里塚の右（箱根）側に杉並木、左（三島）側には笹状の植物が描かれています。南塚の上に複数の低木
が描かれていますが、種類はわかりません。現在は一里塚の箱根側に国道1号が通っています。



『東海道分間延絵図』より「畑宿一里塚」
一里塚の形や回りの石積み、塚の上の木の様子などがよくわかります。
東京国立博物館蔵

《参考文献》

『静岡県歴史の道－東海道－』
『箱根旧街道畑宿一里塚保存整備事業報告書』
『神奈川の東海道(下)』
『東海道箱根峠への道』

静岡県教育委員会
箱根町教育委員会
かなしん出版
中部建設協会

箱根旧街道一里塚

発行年月日 令和2年3月31日
編集・発行 三島市教育委員会 文化財課
〒411-0035
静岡県三島市大宮町1丁目8番38号
TEL 055-983-2672 FAX 055-983-0870
E-mail : bunkazai@city.mishima.shizuoka.jp
印刷 文光堂印刷株式会社